

伊豆東部火山群の火山活動解説資料（令和5年12月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1）

大原及び大崎監視カメラによる観測では、噴煙などの表面現象は認められません。

・地震や微動の発生状況（図2、図3-①）

3日から5日及び11日から12日にかけて、初島から北北西に約4km離れた領域を震源とする地震が一時的に発生しました。この地震発生に伴う火山活動の活発化は認められていません。そのほか、伊豆東部を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図3-②~⑧、図4）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



左図：大原監視カメラ（12月30日） 右図：大崎監視カメラ（12月30日）

図1 伊豆東部火山群 伊東市沖の状況

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和6年1月分）は令和6年2月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

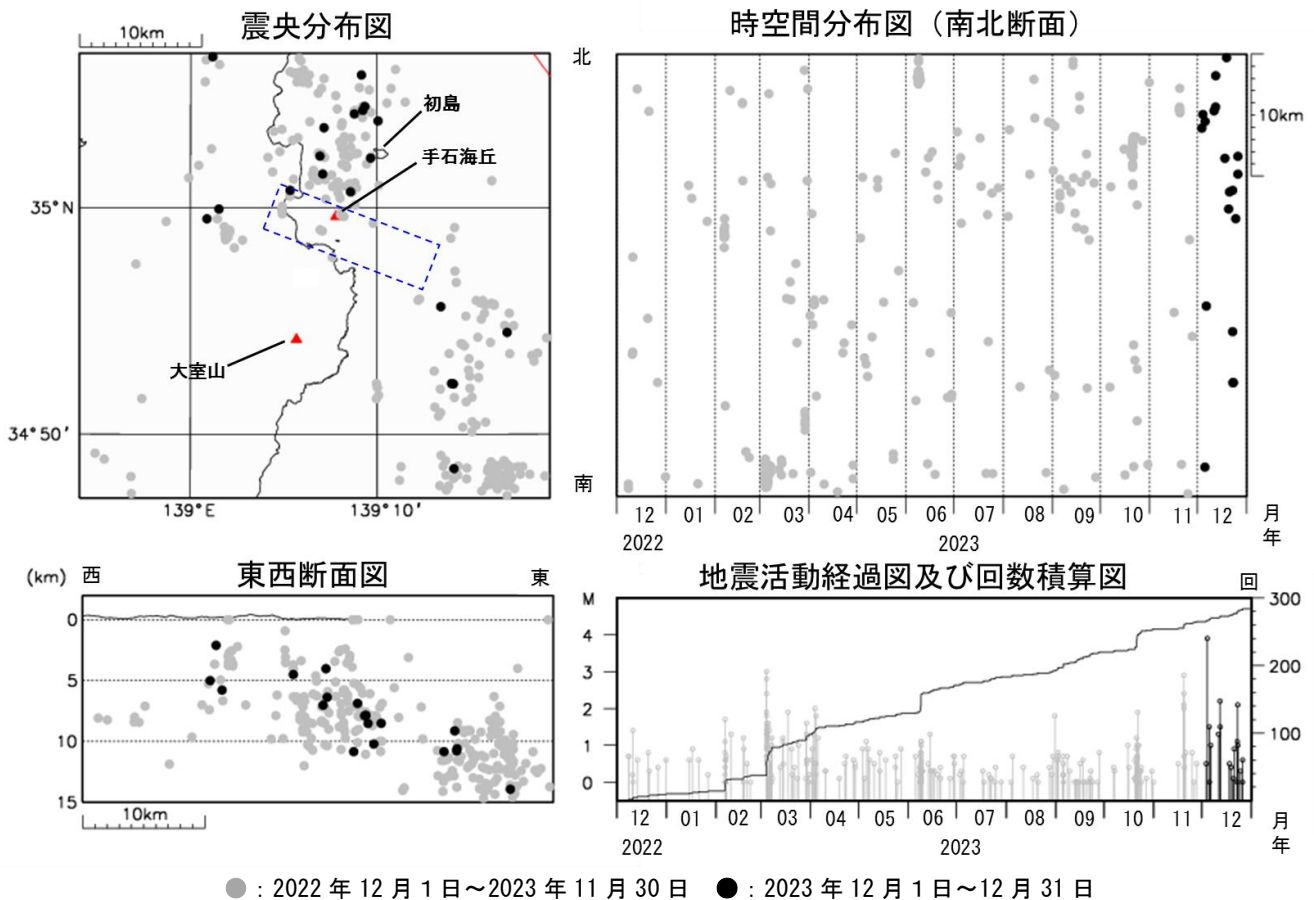


図2 伊豆東部火山群 広域地震観測網による震源分布図（2022年12月1日～2023年12月31日）
 □の領域は群発地震活動の発生する可能性がある範囲（火口が出現する可能性のある範囲）を示しています。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_316.pdf
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.0以上を表示しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています。

- ・伊豆東部火山群付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。
- ・3日から5日及び11日から12日にかけて、初島から北北西に約4 km離れた領域を震源とする地震が一時的に発生しました。
- ・4日11時21分に発生した地震で、熱海市泉で震度3を、12日10時27分に発生した地震で、熱海市泉で震度1を観測しました。

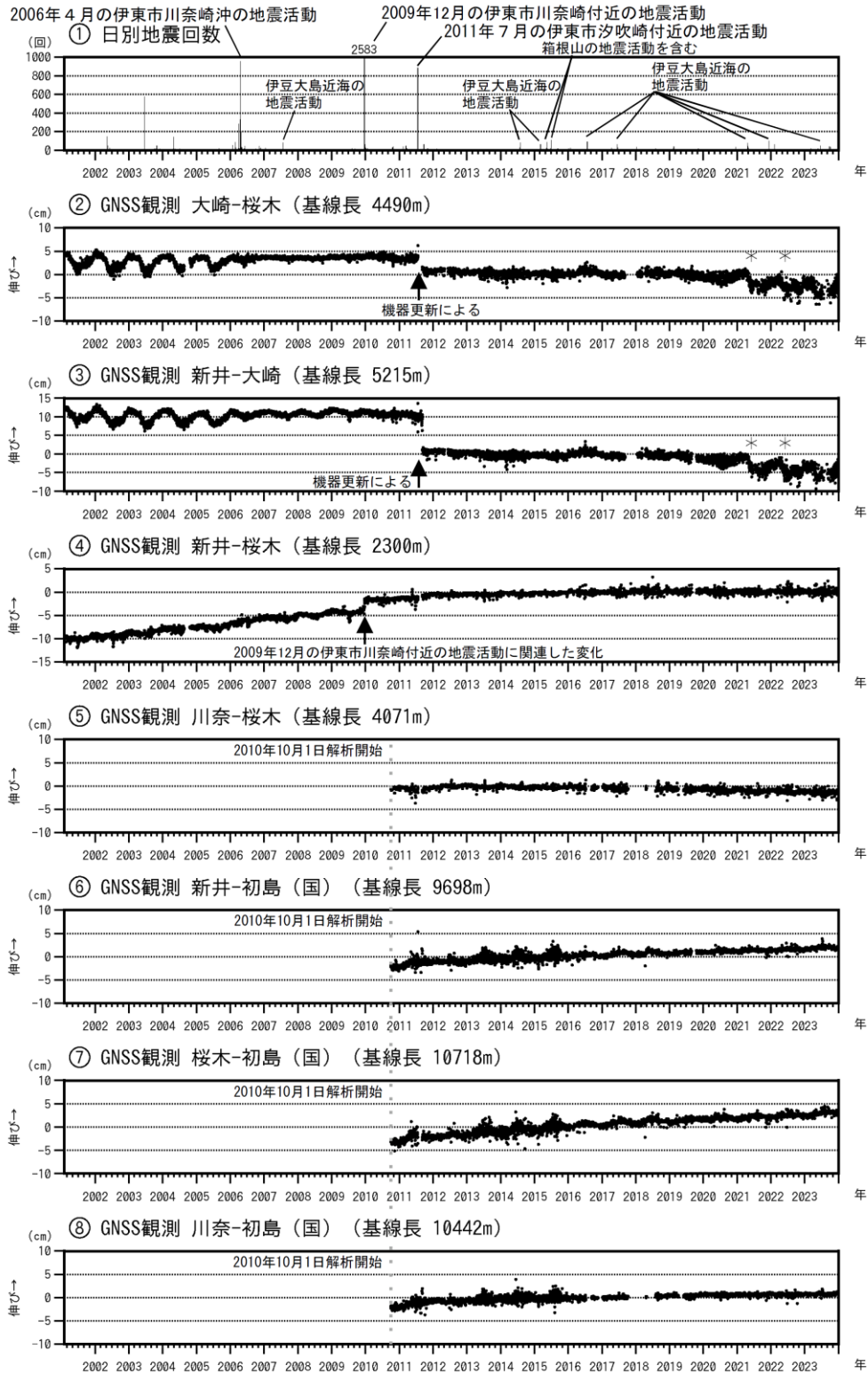


図3 伊豆東部火山群 火山活動経過図 (2001年2月1日~2023年12月31日)

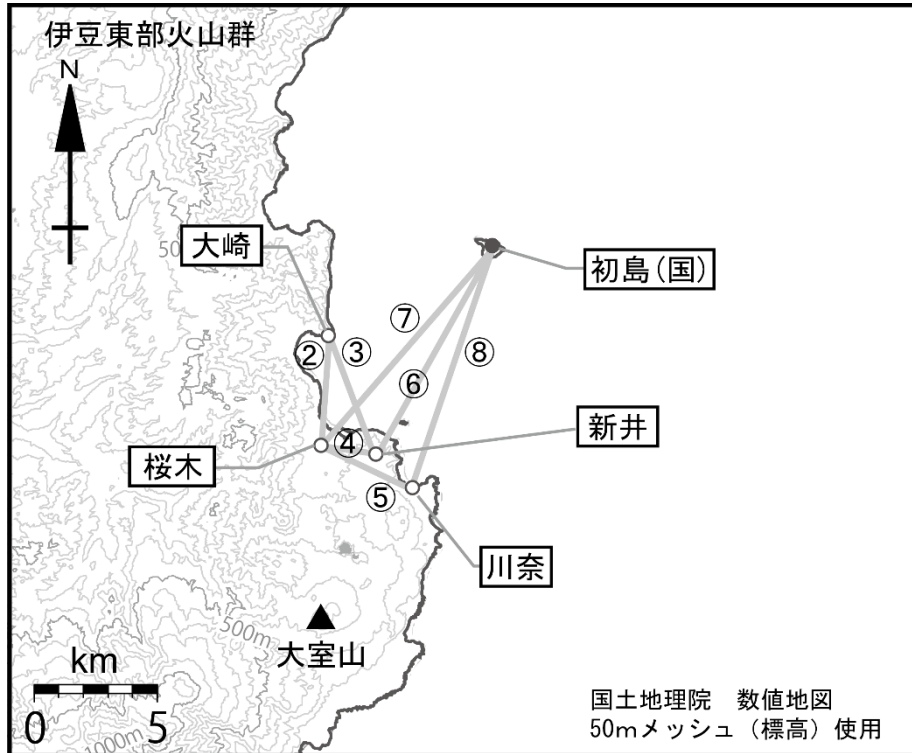
②~⑧は図4のGNSS基線②~⑧に対応。(国): 国土地理院。グラフの空白部分は欠測を示します。

2010年10月及び2016年1月以降のデータは解析方法を変更しています。

基線長変化に見られる周期的な変動は季節変動と考えられます。

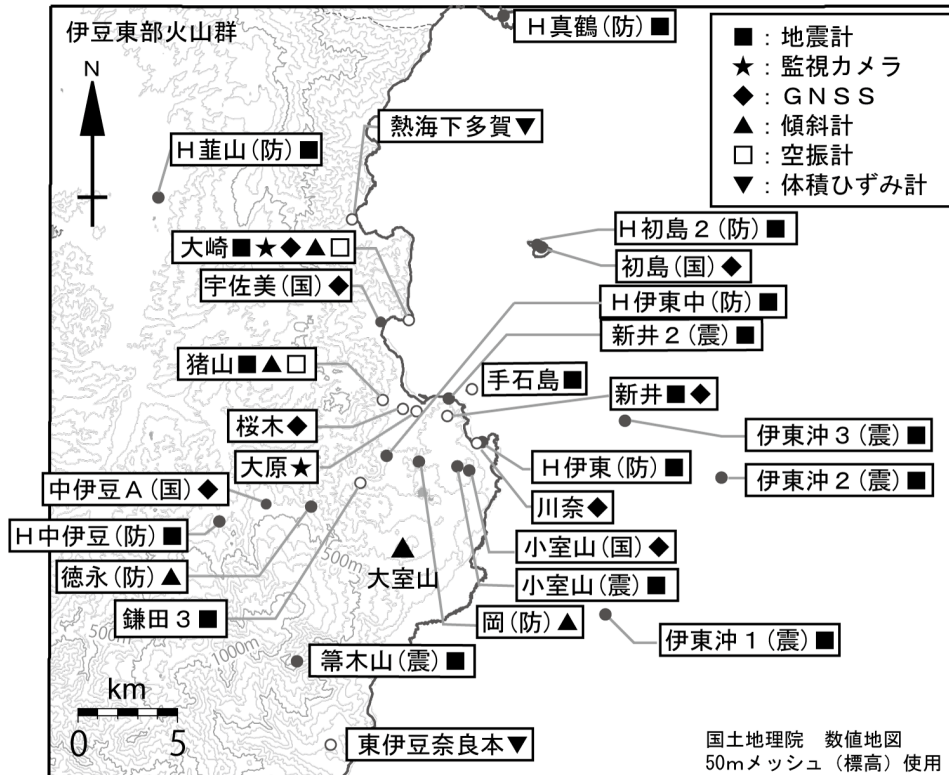
②③のGNSS基線でみられる変化(*)は、大崎観測点に起因する変化であり、火山活動によるものではないと考えられます。

・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変動は認められません。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院

図4 伊豆東部火山群 GNSS 連続観測点配置図
 図中の GNSS 基線②～⑧は図3の②～⑧に対応しています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所

図5 伊豆東部火山群 観測点配置図